



SESERAGI-MISHIMA Rotary Club

Weekly Report

せせらぎ三島ロータリークラブ週報

2008~2009年度 RI会長 李 東建

RIテーマ **Make Dreams Real 夢をかたちに**

クラブ会長基本テーマ「20年の生業を基に、仲間を増やそう」

会長 大房正治 副会長 山梨一正 幹事 鈴木政則

第947回 例会

2009.4.10(金) 晴れ

司会：遠藤正亀君 指揮：石井邦夫君

国歌斉唱

ロータリーソング「我等の生業」

事務所 三島市大社町17-4

TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

例会場 ブケ東海三島

TEL.055-984-0120

毎週金曜日 第1・第3 夜間例会



撮影：山本章君

会長挨拶

せせらぎ三島ロータリークラブ

会長 大房正治君



桜が満開の季節になりました。川柳に♪散る桜、咲いている桜も、散る桜♪と歌っておりますが、咲くときはバラバラでも散る時は潔く一斉に散っていく、これは同期の桜の歌の原点です。桜と言えば入学式ですが、来賓の中に国家斉唱の“君が代”を唄わない族（やから）がいました。子供達にどの様に説明をするのでしょうか？

国家の象徴としての天皇陛下が今日「結婚50周年」をお迎えになりました。陛下は1959年婚約決定後に「語らいを重ねゆきつつ気がつきぬわれのこころに開きたる窓」と詠まれました。「開かれた窓から私は多くのものを吸収し、今日の自分をつくっていたことを感じます」と言われ「結婚50年を本当に感謝の気持ちで迎えます」と話す途中、一瞬声を詰まらせた、との印象的な記事が新聞に載っておりました。

8日に長泉ロータリーの依頼により、米山記念館へ野中パスト会長と矢岸広報委員長と共にタイへの放置自転車贈呈事業のリレー卓話をしてまいりました。スリウォンロータリークラブとの交渉から遡ると8年目、毎年20フィートのコンテナにタイヤを新品にした460台の自転車を搭載、6年目が過ぎました。1回当たり18~25万円になりましたが、自転車1台450円です。小額のお金でこんなにも現地の皆様が喜んでいただける事業は我がクラブの誇りに思います。

幹事報告

幹事 鈴木政則君

1. ガバナー事務所より ブラジルの方々が派遣切りの為 各クラブで支援について会員1人に1000円の寄

付をしていただきありがとうございました。

2. ロータリーの新たなチャレンジが届いています。
3. 各クラブより週報が来ています
新富士ロータリークラブ
吉原ロータリークラブ
沼津北ロータリークラブ

出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	34/39	87.18%	35/39	89.74%
今回	33/38	86.84%	会員総数	39名
欠席者 あなたが見えなくて残念でした。				
石井和君、土屋君、宮澤君、山田君、米山君				

おめでとう

会員誕生日

川村 壽子さん 4月13日
古屋 憲男君 4月19日
久保 栄子さん 11月28日

入会記念日

小林 勝君 4月16日
岡 良森君 4月20日

スマイルボックス

内田憲一君：いつも当社のバスをご利用いただきありがとうございます。

遠藤正亀君：先週、急な客でドタキャンしてしまいました。スマイルします。

岡良森君：先週土曜日、仕事で大阪堺市まで車で行ってきました。例の割引で片道9520円が1600円で行けました。得した一部をスマイルします。

片野誠一君：本日例会終了後、20周年実行委員会を開催させていただきます。会員の皆様のご出席をよろしくお願いいたします。

川村壽子さん：5月24日（日曜日）、そば処丸平の1周年記念ゴルフコンペを行います。場所は三島ントリークラブで、6組で行います。ご都合のつく方はぜひご参加ください。申し込みはFAXをお願いします。FAX 055-975-0068

小林勝君：せせらぎ三島漁業組合新組合員の小林です。先日、山田組合長、米山漁労長指導の下、鯛釣りに連れてっていただき、才能だけで見事真鯛を釣ることが出来ました。山田組合長、米山漁労長、ありがとうございます。

杉山隆君：先日、せせらぎ三島RCのロゴデザイン料をいただきました。今後、このマークが使われることは大変光栄なことだと感謝しております。一部をスマイルいたします。

山本章君：申し訳ありません。打ち合わせのため早退します。よろしくお願いいたします。

卓話

野中信行君

「よりよき明日に向けた生活習慣とは、遺伝子が示す健康長寿への道」

人間は何歳まで生きられるのか。

若さを保つにはどうすればいいのか。

遺伝子研究の成果により、長年人類が追い求めてきた寿命や老化に関する疑問が解明されつつある。その鍵となったのは生物の寿命に貢献する長寿遺伝子の発見だ。

「寿命のコントロールは夢じゃない?!」

その昔、秦の始皇帝は不老不死の薬を求め、日本に人を派遣した。スペインの探検家ファン・ポンセ・ダ・レオンは若返りの泉を探してアメリカ大陸を旅した。健康で長くいきたいというのは、いつの時代も変わらぬ人類

の願い。しかし、どんな権力者にも寿命を思い通りにすることはできなかった。願ってもかなわない夢だった。しかし、遺伝子研究が飛躍的に進歩した今、寿命のコントロールも夢ではなくなりつつある。寿命をつかさどる遺伝子研究の国内第一人者といわれる順天堂大学大学院の白澤卓二教授は「老化を遅らせ、長寿に貢献する長寿遺伝子の存在が明らかになってきた」と話す。この長寿遺伝子については、すでに酵母菌、線虫、ショウジョウバエ、マウスなどのモデル生物を使った実験を通じて数十種類が確認されている。中でも最初に発見され、最も注目されているのはS i r 2（サーツー）と呼ばれる遺伝子。2003年、米マサチューセッツ工科大学のレオナルド・ガレンテ教授による研究成果だ。

人間でも確認された長寿遺伝子の存在

ガレンテ教授は1991年から長寿遺伝子の研究を始めた。モデル動物として使ったのはパンやビールの製造で用いる酵母菌。その体はたった一つの酵母菌からなり、約60兆個の細胞を持つ人間に比べて格段に原始的。遺伝子の数も5000個で、人間の遺伝子の数2万2千個に比べて大きな開きがある。ガレンテ教授はこのシンプルな酵母菌で遺伝子操作を行い、それが寿命にどう影響するのかを検証した。そして、ある遺伝子を取り除くと酵母菌が早く死に、逆に増やすと長生きすることに気づいた。この遺伝子こそ、寿命に影響を与えるS i r 2遺伝子だったのである。続いてガレンテ教授は長さ1ミリの線虫という生物で研究を行い、S i r 2遺伝子を増やすと寿命が1.5倍に延びることを突き止めた。さらに、哺乳類のマウスでも同じ働きをする遺伝子があることを確認。後の研究で、人にあることも分かっている。

次回卓話



4月17日（金）18時30分
親睦例会

PHOTO GALLERY

